

奈良公園の渋滞対策について

平岡 佑一朗¹

¹奈良県 吉野土木事務所 工務第一課 (〒639-3111奈良県吉野郡吉野町上市2150-1)

奈良県が世界に誇る奈良公園には、国内外からの多くの観光客や、修学旅行生が足を運んでいる。しかし、ハイシーズンになると観光バスによる渋滞が慢性的に発生しており、来訪者が安全で安心してゆっくりと周遊できる環境が確保できていなかった。また、名勝指定地である奈良公園の中心部へ、観光バス等の多くの車両が流入することで、名勝奈良公園の風致景観を損ねている状態にあった。

本論文では、奈良県が実施している奈良公園の渋滞対策について紹介する。

キーワード 奈良公園、渋滞対策、駐車場予約システム、(仮称)登大路バスターミナル

1. はじめに

近年、インバウンドの影響により日本を訪れた外国人観光客は増加傾向にあり、日本政府観光局¹⁾の発表によると、2014年の1,341万人から、2015年は1,974万人と47.1%増加し、3年連続で過去最高を記録している。中でも、奈良県への外国人観光客数は、55.3%増加しており、全国平均を大きく上回る伸びとなっている(図-1)。

また、外国人を含む観光客数も増加傾向にあり、奈良県観光客動態調査²⁾によると、2013年の3,547万人から、2014年は3,811万人と7.4%増加している。

さらに、その中で奈良市を訪れた外国人を含む観光客数は、2014年の1,414万人から2015年は1,498万人と5.9%増加しており、国内外の奈良への注目度が上昇してきていることがわかる(図-2, 3)。

しかし、この観光客の増加の影響により、奈良公園内の交通渋滞が多発していることは、従来からの大きな課題である。特に、団体旅行や修学旅行で来られる観光バスが原因で、多くの渋滞が発生しており、来訪者が安全で安心してゆっくりと周遊できる環境が確保できていない。また、名勝指定地である奈良公園の中心部へ、観光バスをはじめとした多くの車両が流入することで、名勝奈良公園の風致景観を損ねているのが現状である(図-4)。

本論文では、この観光バスによる奈良公園内の渋滞に対して、本県が導入した駐車場予約システムについて紹介する。

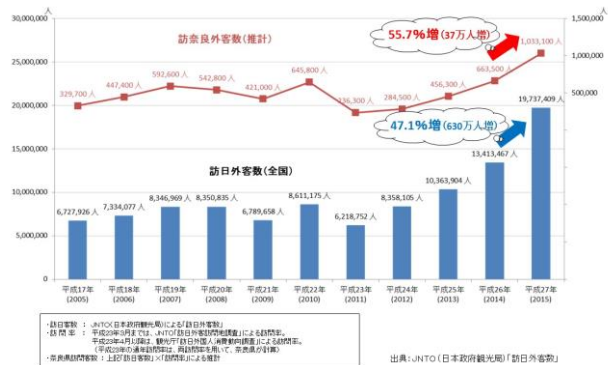


図-1 外国人観光客の訪日・訪奈良の状況

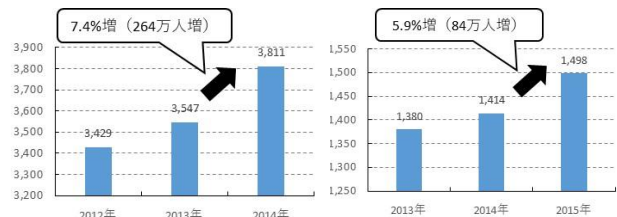


図-2-3 奈良県(左)奈良市(右)への観光客数(外国人観光客を含む)



図4 奈良公園内で発生している観光バスの渋滞状況

2. これまでの経緯

奈良公園は、古代からの優れた自然景観と日本が誇る文化財が混然一体となった公園であり、多くの観光客と、修学旅行の訪問先として多くの学生を受け入れてきた。来訪される観光バスについて、奈良県は、奈良公園内に管理している奈良大仏殿前自動車駐車場（以下、「大仏殿前駐車場」という。）、奈良高畑自動車駐車場（以下、「高畑駐車場」という。）で、団体観光客や修学旅行生の観光バスを処理してきた（図-5）。

奈良公園に修学旅行で来られる観光バスは全体の約8割を占めており、特に5、6、9、10月に受け入れる観光バスの約9割が修学旅行の観光バスである（図-6）。また、この修学旅行の観光バスは、上述の両駐車場への来場時間と退場時間が一定の時間に集中する傾向にある。

しかし、当時は、当日の観光バスの来訪台数や、駐機時間等が把握できておらず、両駐車場の駐機容量を超える時間帯、大仏殿前駐車場出入り口の処理能力を超える時間帯が発生していた。これらが原因となり、奈良公園内の交通渋滞が発生していた。

そこで、本県は2011年9月26日より駐車場予約システムを導入し、こうした観光バスによる渋滞の緩和を図ることとした。

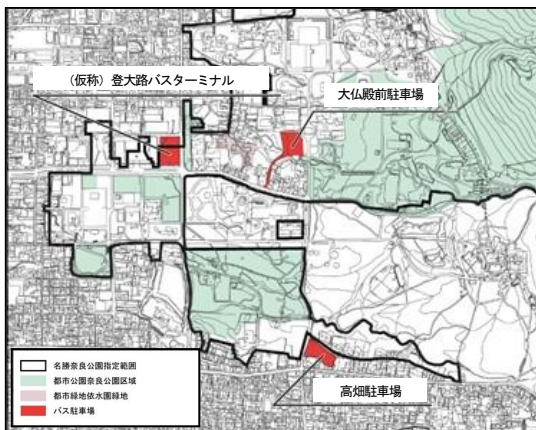


図-5 大仏殿前、高畑駐車場および(仮称)登大路バスターミナルの位置関係

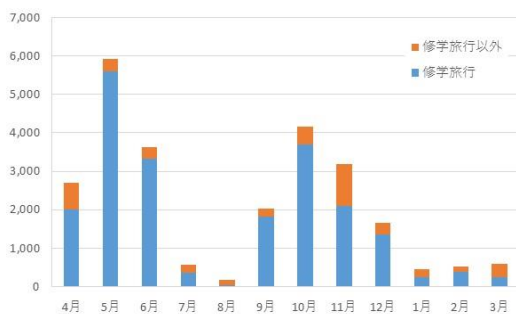


図-6 修学旅行による観光バスの割合

3. 駐車場予約システムの概要

導入された予約システムは、事前の予約の受付・調整、問い合わせ対応、料金事務処理、広報等を行う奈良公園団体バス駐車場予約センターを設置し、大仏殿前、高畑駐車場の観光バス利用を、原則、インターネットによる事前予約としたものである（図-7）。

また、修学旅行による観光バスが多いハイシーズン（4～6月、9～11月）は、大仏殿前駐車場を乗降専用駐車場、高畑駐車場は乗降・駐機駐車場とし、オフシーズン（12～3月、7～8月）は両駐車場ともに乗降駐車可能とした。

この予約システムの導入により、大仏殿前、高畑駐車場に来訪する観光バス台数を事前把握するだけでなく、予約時に観光バスの来訪時間をコントロールし、ピーク時の観光バス台数の分散を図った。また、ハイシーズンには、大仏殿前駐車場を乗降専用とし、乗客を降ろした駐機バスは高畑駐車場へ移動する、という大仏殿前駐車場を拠点とした運用方針を明確にした。

これらの取り組みにより、観光バスが来訪する時間の分散を図り、ピークを平準化する（図-8）とともに、ハイシーズンには、大仏殿前駐車場は乗降の観光バス、高畑駐車場は駐機の観光バスを受け入れることを基本とすることで、場所の分散を図り、奈良公園内の渋滞緩和に努めた。

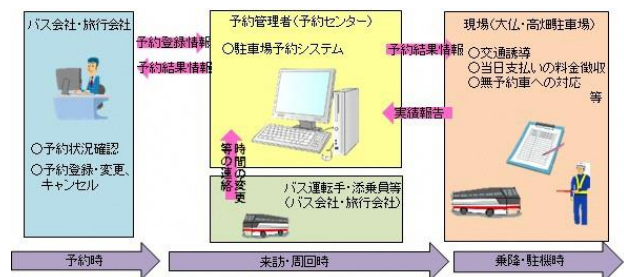


図-7 駐車場予約システムの主な流れ

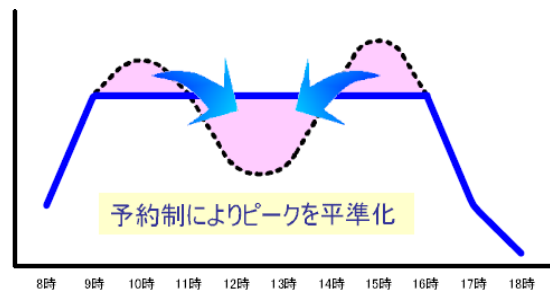


図-8 ピーク平準化のイメージ

4. 駐車場予約システム導入による効果と課題

駐車場予約システム導入に伴い、当初から、広報活動を精力的に行ったこともあり、浸透が早く、導入当初から多くの予約をいただけたことで、渋滞のピークを平準化でき、来訪する観光バスをコントロールできるようになった。2016年においても、図-9のようにピーク時間の分散が図れていることがわかる。

しかし、奈良公園内では、現在も渋滞が発生している。この原因として考えられることは、冒頭にも述べたように、近年増加している外国人観光客の観光バスによる影響が挙げられる。

外国人の団体観光客の旅行の仕方は日本とは異なり、旅行の当日、添乗員がお客様に訪れたい場所を伺い、目的地を決定するというものである。そのため、当システムで把握していない観光バスが奈良公園に来訪し、渋滞発生の原因となっている。

また、こうした観光バスによる渋滞が奈良公園内で発生することで、名勝奈良公園の風致景観を損ねるという問題もある。これは、当システムの運用拠点である大仏殿前駐車場が、奈良公園の中心部にあることが問題であると考えられる。



図-9 2016年のピーク平準化の様子

5. 今後の取り組みについて

課題として述べた外国人観光客については、こうした外国人観光客の旅行を企画している各旅行会社への周知を、地道に継続しておこなっていくことが必要である。また、無予約で来訪された観光バスに対して、予約してこられた観光バスよりも高い料金設定をすることで予約の促進を図ることも必要と考える。

2つ目の当システムの運用拠点である大仏殿前駐車場が奈良公園の中心部にあることについて、奈良県では、奈良公園の玄関口にあたる位置に、(仮称)登大路バスターミナル(以下、「バスターミナル」という。)の建設を予定しており(図-10)、その中に当システムを移行する計画としている。それに伴い、これまで奈良公園の中心部まで侵入していた観光バスを、まずバスターミナルへ入れ、バスターミナルを中心として観光バスを処理していく計画である(図-11)。

このことにより、奈良公園の奥深くへ侵入する観光バスの台数を減少させ、発生していた大仏殿前駐車場の入り口における渋滞等、奈良公園内の渋滞緩和を図り、観光客、住民の方々が安心して過ごせる奈良公園の実現を目指す。それと共に、名勝奈良公園の価値を損ねない交通環境の実現を目指す。

また、このバスターミナルは、奈良公園の玄関口に位置することから、奈良公園をはじめとする、奈良の魅力ある歴史や文化などを学べる施設を整備し、来訪者への積極的な情報発信を行う。奈良公園を含めて、奈良が本来持っている価値を広く発信することで、その魅力をより多くの方々に知っていただき、「奈良らしさ」を心で感じていただきたいと考えている。



図-10 (仮称)登大路バスターミナル完成イメージパース

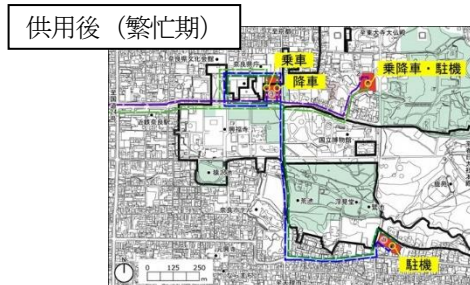
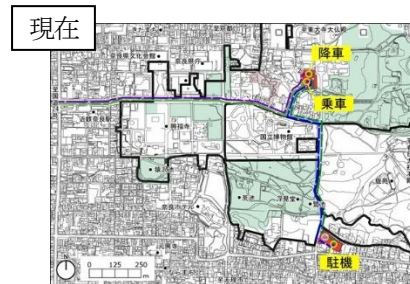


図-11 (仮称)登大路バスターミナル供用前後の観光バスの動線の変化

6. おわりに

JWマリオットが誘致された県営プール跡地のホテル事業により、奈良のさらなる盛り上がり期待される中、奈良公園へ来られる観光客の増加も大いに期待される。その受け皿として、奈良県が世界に誇る奈良公園のさらなる魅力向上に寄与すべく、本論文で紹介した駐車場予約システムと、新たに誕生するバスターミナルによる、奈良公園内の交通環境の向上を図っていく。

さらに、名勝指定地である奈良公園において、現代まで受け継がれてきた古き良き奈良を、後世にしっかりと伝えていくためにも、奈良公園内の交通環境を向上させ、風致景観を守るだけでなく、奈良の魅力の情報発信により、奈良公園の持つ価値を正しく発信し、その価値を理解していただくことが必要である。価値を正しく理解し

ていただくことが、奈良公園の持つ価値を維持し、さらに高めていくことに繋がると考える。

謝辞: 本論文の作成にあたり、数々のご指導を頂いた皆様、また日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた関係者の皆様に、深く感謝いたします。

※本論文は、従前の所属である奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室で取り組んだ内容をもとにとりまとめたものである。

参考文献

1) 日本政府観光局

http://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html

2) 奈良県観光局ならの魅力向上課：観光客動向調査

<http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?itemid=15577#itemid15577>